

農村の振興

まちからむらから

集落のこれからを考える 「藤井みらい創造会議」



池田 奈菜子
山形県庄内総合支庁
産業経済部農村計画課 技師

一、はじめに

山形県遊佐町藤井地区は米どころ庄内平野の北部、鳥海山の南西麓に位置する中山間地域で、地区内に



藤井の棚田と鳥海山

は100 ha余りの「藤井の棚田」を有しています。棚田からは、庄内平野、日本海、飛鳥を一望でき、県内有数のサンセットスポットにもなっています。そのほか、体長2 cmほどで日本最小、世界でも最小の部類といわれるハッチョウトンボの群生地や、滝と湧水を楽しめる高瀬峡などがあり、豊かな自然が魅力の地区です。

二、棚田地域振興の取組み

当地区では毎年夏に、庄内平野と日本海を一望できる高台に約2万本のひまわりが咲き誇ります。この取組は町の地域おこし協力隊員の発案から始まったもので、現在は集落の実行委員会が中心となって植栽を継続しています。このほか、棚田で花火を打ち上げるイベントが行われるなど、棚田の景観を生かした取組が積極的に行われています。

これらの取組と類まれな景観が

評価され、令和4年には「つなぐ棚田遺産」（農林水産省主催）に認定されました。つなぐ棚田遺産は、棚田地域振興に関する取組を積極的に評価し、棚田地域の活性化や棚田がもつ多面的な機能に対するより一層の理解と協力を得ることを目的として、優良な棚田を認定するものです。

三、ワークショップのはじまり

当地区で中山間地域等直接支払交付金を活用している集落協定組織（以下、協定）は、集落戦略の作成に向けて町や県と話し合いを重ねていました。集落戦略とは、協定農用地や集落全体の将来像、課題、対策等を協定参加者で話し合って作成するもので、将来的に維持すべき農用地を明確化し第5期対策期間（令和2～6年度）後も農業生産活動が継続されるよう促すため、体制整備単価（10割単価）を受ける

要件になっています。

令和2年、協定役員は集落戦略作成のため農業者を中心とした話し合いを予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。そして翌年度、改めて準備を進めていく中で「せっかくの機会なので、集落のみんなが集まって話せる場にしたい」という協定役員の意向が強まり、集落全体を対象としたワークショップの開催が決定しました。

四、藤井みらい創造会議

ワークショップは地区住民により「藤井みらい創造会議」と命名され、全2回の日程で開催されました。

（一）お宝探しと課題の整理

10歳未満から80代までの住民ら54名が参加した第1回会議では、6班に分かれて集落内を探索し、見つけたものを「強み・弱み・活用可能な資源・今後不安なこと」に分類し

ました。各班から「藤井と言えばこれ」という項目を5つずつ選んでもらったところ、景観、ひまわり、仲の良さといった魅力が多く選ばれた一方で、生活の不便さや空き家の増加を不安視する意見も見られました。

(一) 気づきに対する提案

続く第2回では、前回見つけたものに対して「強みを維持する・弱みを改善する・資源を活かす・不安を解消する」ための提案を出し合い、それらをいつ、誰が、どんな人や組織と連携して実践するかを考えました。約2時間で行われた提案の総数は180個。集落に住み続けるための提案や、住民中心で実践するものに分類された提案が多く、自分た



現場探検に出発！

ちが藤井を守っていくのだという強い思いが垣間見えました。

五、みんなの提案から生まれたもの

住民が出し合った提案は、その後多方面に展開を見せています。

1つ目は集落戦略の策定です。提案をもとに協定役員が集落の現状と課題を改めて整理し、対策の方向性を検討しました。その結果、現状は「今後も耕作を継続していくが、法面や水路の維持管理が負担となっている」「対策の方向性としては「協定内で担い手を育成しつつ、地域住民を巻き込んだ活動でコミュニティ機能を強化していく」と整理されました。そして、より多くの若者に農



たくさんの提案がありました

業や集落に対して興味・関心・愛着を持つてもらうため、住民が集まる場を積極的につくること、ひまわりや花火の取組を継続していくこと等を具体的な対策として盛り込み、当協定の集落戦略が完成しました。

2つ目は棚田の保全です。つなぐ

棚田遺産の認定を受け、今後も棚田を守り続けていきたいという意見が多く出されたものの、協定参加者だけでの維持管理には限界があります。そこで、協定農用地の共同作業に非農家の住民の参加を促し、より多くの住民から棚田保全に対する理解・協力を得ながら保全活動に取り組んでいくこととしました。

3つ目は集落戦略策定に向けた動きの広がりです。当地区での事例がモデルとなり、町内の他組織でも策定に向けた話し合いが進められています。

素晴らしい宝を守り後世へ受け継いでいくため、藤井みらい創造会議での提案をきっかけに、より活力あふれる地区になっていくことを期待しています。

六、「棚田カレー」も！

山形県では棚田地域振興のため、異分野・異業種と連携し、棚田及び棚田周辺の地域資源の新たな魅力の発掘・発信や価値創出に取り組

んでいます。この取組の一環として、棚田米の消費拡大を図るために考案されたのが「やまがたの棚田カレー」です。棚田の形状を模したライス型で棚田米を食べるこの取組は、県内各地の飲食店等で展開されてきました。

第1回藤井みらい創造会議の昼食では、藤井の棚田米と野菜をふんだんに使用した「魅惑の藤井の棚田カレー」が振る舞われました。約50人で5升のお米を完食し、棚田米の消費拡大に大きく貢献しました。



魅惑の藤井の棚田カレー

(2023年5月受稿)